

1 単元名 体づくり運動「めざせ きたろう 大うんどうかい」

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。

イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などを行うこと。

低学年においては、発達段階を考えると直接体力を高めることを学習の目的とすることは難しいが、将来の体力向上につなげていくためには、この時期に様々な体の基本的な動きを培っておくことが重要である。そのためにも、より多くの幅広い運動を経験させることが大切であると考えられる。また、自己の力を試したり、競争したりして楽しむことができる運動領域でもあるので、児童が主体的に取り組むことができる種目設定が必要とされる。

本時の学習では、児童の日常生活での運動遊びに着目し、(ア)体のバランスをとる運動遊び、(イ)体を移動する運動遊び、(ウ)用具を操作する運動遊び、(エ)力試しの運動遊びの4つの観点を取り上げ、対抗戦の種目を構成した。児童にとっては身近な学習素材であるので、児童なりに多様な動きをつくり、体の基本的な動きを総合的に身につけることができ、運動遊びの生活化を図ることができる考える。

(2) 子どもと教師

本校では体育科における育てたい資質・能力を次のようにとらえた。

- ①運動の特性にふれながら課題を解決する力
- ②公正な態度や互いに協力して責任を果たす態度
- ③健康や安全に留意して運動することができる態度

これを受けて、それぞれの単元で育てていきたい資質・能力をより具体的にしながら学習を進めてきている。

本学級の児童は体育の学習に大いに意欲や関心をもっており、体育の時間を楽しみにしている児童が多い。アンケート調査によると、体育の学習が好きと答えたのは38名全員であり、「いろいろな運動ができること」「自分の記録が伸びること」に魅力を感じている。これまでの体育学習では、折り返しリレー等で友達と力を合わせたり、体力テストの自己記録に挑戦したりしながら学習に取り組んできた。これらの活動を通して、友達とかかわり合いながら学ぶ楽しさやできるようになる喜びを感じてきている。しかし、従来の一斉指導型の学習形態では、児童一人一人の持ち味を十分生かすことができず、運動を主体的にかつ十分楽しむことができない児童も見られる。

そこで本単元では、教師が設定していたサーキット運動の中の動作発達の関連性や順序性を考慮して提示したいくつかの運動遊びを、児童自身が自分達に合った運動遊びに変えていくことで、主体的に学習に取り組んでいけるようにしたい。そして、4つの観点をもとに自分達が考えた種目の対抗戦に、自分なりのめあてをもって取り組んだり、対抗戦を通して運動遊びの楽しさや喜びを感じ、進んで体を動かそうとしたりする意欲を育てたい。ただし、その種目が各種運動遊びのねらいに適切かどうかのチェックは教師が行う。

(3) 子どもと教材

本時の学習では、前時の学習でうまくいかなかった動きを見直し、よりうまくいくように動きのポイントを考え、練習を通してできるようにしていきたい。うまくいかない場合は、その原因をチームで考え、自分たちの力で調整できるようにしていきたい。また、友達とのコミュニケーションの力をさらに高めるため、うまくいったときの言葉かけや失敗したときの励ましの声やアドバイスなど、積極的に声をかけ合いながら対抗戦を行うようにしていきたい。そして、学習のまとめとして、自分自身のめあてが達成できたり、自分たちの動きがうまくいったかを振り返る時間を確保し、次時のめあてを明確にしたり、さらなる意欲づけを図ったりしていきたい。

また、活動の中で友達の動きに目が向くように、教師が働きかけることで友達のよさに気づき、互いに認め合いながら活動する楽しさを味わうことができるように支援していきたい。

3 単元の目標

- ・いろいろな運動に親しみ、動きを工夫して高めることができる。
- ・仲良く活動し、きまりを守って、安全に気を付けて運動することができる。
- ・友達とかかわり合いながら、よりよい動きを身に付けたり、活動を工夫したりすることができる。

4 学習計画（全10時間）

1・2・3・4	5・6	7・8・9・10（本時）
オリエンテーション ○学習のねらいを知り、単元の見通しをもつ。 ○サーキット運動のいろいろな運動遊びを通して、4つの観点を知る。 ○4つの観点をもとに、自分達でサーキット運動のいろいろな運動遊びを考え、挑戦する。	○4つの観点をもとに、チームで対抗戦の種目を考え、チームや個人で工夫しながら練習をする。 ○練習を通して、種目の内容やルールの変更を考える。	○「めざせ きたろう 大うんどうかい」（対抗戦）を行う。 ・かさばけ（バランス） ・いったんもめん（移動） ・きたろう（用具） ・ぬりかべ（力）

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

本時の種目で作戦や動きを工夫し、友達と協力して楽しく練習や対抗戦を行うことができる。

(2) 期待される児童の様相

- ・進んで友達とかかわり、互いに教え合い、励まし合いながら活動することができる。（かかわり合う力）
- ・自分やチームの課題を考え、種目に応じためあてや練習方法を考えたり工夫したりすることができる。（適切に判断する力）
- ・自分のめあてに向かって取り組んだり、グループで考えた作戦をしたりして、多様な動きを身に付けることができる。（自分を生かす力）

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学習活動	教師の支援・意図	評価
1 チームごとに準備・準備運動をする。	○チームごとに考えた準備運動をすることで、チームの意識を高めさせる。	・チームの友達と協力して準備・準備運動をしているか。
2 本時のめあてや学習の進め方を確認する。	◇今日の種目を確認させ、前時の学習を振り返りながら、自分なりのめあてをしっかりもたせる。	・自分なりのめあてをもつことができたか。
勝利をめざすために チームワークを大切にしよう		
3 「めざせ きたろう 大うんどうかい」に挑戦する。	○時間の見通しをもたせ、ムードを高めるため音楽を活用する。	
(1) お互いの種目内容を確認し合う。	◇事前に話す内容をまとめさせておくことで、相手チームに種目の内容やルールが分かりやすいようにする。	
(2) チームで練習する。	◇チームの作戦や自分のめあてを意識した練習をするように呼びかけることで、みんなで協力できるようにする。	・友達と協力して、仲良く楽しく活動できたか。
(3) 一回戦を行う。	○作戦を意識した動きやそれがうまくいった場面を認めることで、達成感をもてるようにする。	・チームの作戦や自分のめあてを意識して活動しているか。
(4) 一回戦の結果をもとに話し合う。	◆前半で負けていたチームや情意面でマイナスを示した児童が意欲をもてるように、よかったところを認めたり、作戦面のアドバイスを言ったりする。	
(5) 二回戦を行う。	◇一回戦後に見直した作戦を意識して活動できるように、チーム内で声かけをさせる。	・運動の仕方を工夫しているか。
4 チームごとに本時の活動を振り返る。	○一緒に活動した友達と相互評価することでお互いのがんばりや上達を認め合えるようにする。	・友達のよい動きを見つけることができたか。
5 全体で本時の活動を振り返る。	◇本時に見つけた友達の取り組みの様子について全体場で紹介し、認め合う。	

